

# 熱収支・水収支観測資料 - 2007 年 -

Observational Data of Heat Balance and Water Balance  
- 2007 -

大庭 雅道<sup>\*</sup>・山中 勤<sup>\*</sup>

Masamichi OHBA<sup>\*</sup> and Tsutomu YAMANAKA<sup>\*</sup>

## I はじめに

この「熱収支・水収支観測資料」は、筑波大学陸域環境研究センター(TERC)の直径 160m を有する実験圃場でルーチン観測を行っている熱収支・水収支関係要素の、2007 年における観測値を研究資料として整理したものである。本資料には、観測値の一次的な統計処理による日平均値および日積算値が掲載されている。ただし、風向に関しては月別風向別頻度を掲載した。

本資料に掲載した日平均値および日積算値は、取得された生データのうちの 1 時間平均値（あるいは積算値）を用いて、簡単なクオリティチェックを施した後、1 日分 24 データの平均（積算）値として算出した。この時、欠測でないデータが 20 個未満であった場合は、その日平均（積算）値は欠測とした。また、欠測でないデータが 20 個以上 24 個未満であった場合は、準完全値とした。

測定に用いられる機器は、年一回の保守・点検を行い、測器の精度を保つようにしている。2007 年は 2 月 8 日に行った。また、10 月 13 ~ 14 日は停電のため、日中は予備電源へつなぎかえて観

測を行った。

圃場内の草刈りは、2005 年より夏季、冬季の年 2 回実施することとなった。2007 年は 7 月 27 日と 10 月 23 日に行われた。

## II 観測要素および観測測器の説明

### 1. 風向 : Wind Direction

観測用鉄塔の高度 29.5 m 南東側に設置されている超音波風速温度計によって測定されている。値は、正時の 10 分間平均値である。

本資料では、風向データは 16 方位に変換し、風向別頻度としてまとめた。この際、風速が 0.2 m/s 以下であれば静穏（calm）と判定した。

### 2. 風速 : Wind Speed

観測用鉄塔に取り付けた超音波風速温度計によって得られた水平風速の日平均値である。測定高度は地表面から 1.6 m および 29.5 m、単位は m/s である。

1997 年 8 月 1 日以降、高度 29.5 m では、超音波風速温度計が観測用鉄塔の南東及び北西側に設置してある。このため、本資料においても昨年

\* 筑波大学陸域環境研究センター

と同様に、29.5 m の値として、日平均風向が 33–213 度のときは南東側の値を、0–33 度及び 213–360 度のときは北西側の値を採用した。また、風向が欠測の場合は、南東側と北西側の平均値とした。

また、1997 年から主風向の成分として北成分が強くなる秋に高度 1.6m の南東側のものを北西側に、逆に南成分が強くなる春に北西側のものを南東側に付けかえる作業を行っている。2007 年は、5 月 17 日に北西のもの（高度 1.6 m）を南東に移動させ、11 月 7 日に南東のものを北西に移動させた。

### 3. 運動量フラックス : Momentum Flux

超音波風速温度計によって測定された水平風速の変動成分  $u'$ 、垂直風速の変動成分  $w'$  から得られる 2 つの変動量の積の平均  $\overline{u'w'}$  の日平均値である。上向きを正としており、単位は  $\times 0.1 \text{ m}^2/\text{s}^2$  である。測定高度は地表面から 1.6 m および 29.5 m である。1 時間平均値に 1 つでも欠測あるいは異常が見られる場合にはその日の日平均値を欠測とした。詳しくは齊藤・浅沼（2004）を参照されたい。

高度 1.6 m および 29.5 m での観測の詳細は、  
2. に記述したものと同様である。

### 4. 顯熱フラックス : Sensible Heat Flux

超音波風速温度計によって測定された鉛直風速および気温の変動量の積の平均  $\overline{w'T}$  の日平均値である。上向きを正としており単位は  $\times 0.1^\circ\text{C} \cdot \text{m}/\text{s}$  である。測定高度および欠測処理は運動量フラックスと同様である。詳しくは齊藤・浅沼（2004）を参照されたい。

高度 1.6 m および 29.5 m での観測の詳細は、  
2. に記述したものと同様である。

### 5. 全天短波放射量 : Total Short-wave Radiation

熱電対式全天日射計を地表面から高度 1.5 m に

設置して測定した値の日平均値である。単位は  $\text{W}/\text{m}^2$  である。

### 6. 正味放射量 : Net Radiation

通風型熱電対式放射収支計を地表面から高度 1.5 m に設置して測定した値の日平均値である。単位は  $\text{W}/\text{m}^2$  である。

### 7. 地中熱流量 : Soil Heat Flux

熱電対式地中熱流板によって得られた日平均値で、測定深度は地表面から 2 cm である。単位は  $\text{W}/\text{m}^2$  である。

### 8. 日照時間 : Sunshine Duration

研究棟の屋上に設置した回転式日照計によって得られた日積算値で単位は分である。2004 年 10 月 17 日以降、データの不良が続いていたが、2007 年 4 月 13 日の日照計本体の更新によって、2007 年度からテーブルを復活させた。

### 9. 気温 : Air Temperature

観測用鉄塔の北東側に取り付けた通風式白金抵抗温度計によって得られた日平均値である。測定高度は地表面から 1.6 m、12.3 m および 29.5 m、単位は  $^\circ\text{C}$  である。

### 10. 地温 : Soil Temperature

直径 10 mm、長さ 15 cm の防水型白金抵抗温度計によって得られた日平均値である。測定深度は地表面から 2 cm (ST-1)、10 cm (ST-2)、50 cm (ST-3) および 100 cm (ST-4) であり、単位は  $^\circ\text{C}$  である。センサーは深度 1 m の穴の側壁に地表面と平行に挿入し、埋土した。

### 11. 地下水位 : Ground Water Level

地表面から地下水までの深さの日平均値で単位は m である。観測には水圧式水位計が使用された。測定深度は、10.0 m 深 (GW-2、スクリー

ン深度は8～9m)と新2.0m深(GW-4, 同0.5～2m)の2種類である。GW-4はほとんどの時期で水面が2mよりも低くなっている、欠測としている。

## 12. 露点温度 : Dew-point Temperature

観測用鉄塔の南西側に取り付けた静電容量式高分子膜センサーによって得られた湿度より算出された日平均値である。単位は°C、測定高度は気温と同様である。露点温度  $T_d$  [°C] は新温湿度センサーの温度  $T$  [°C]・相対湿度 RH [%] から、以下のように求める。

$$T_d = \{b \times \log_{10}(e/6.11)\} / \{a - \log_{10}(e/6.11)\}$$

ここで、e は水蒸気圧 [hPa] であり、

$$e = es \times RH / 100$$

である。es は飽和水蒸気圧 [hPa] であり、Tetens の近似式

$$es = 6.11 \times 10^{aT/(b+T)}$$

より求めた。係数 a, b は水面上での値 ( $a = 7.5$ ,  $b = 237.3$ ) を用いた。

## 13. 降水量 : Precipitation

1転倒0.5mm、受水口直径20cmの転倒ます型隔測自記雨量計を使用して測定された。単位はmm(水深換算)で、日積算値である。

## 14. 気圧 : Atmospheric Pressure

観測用鉄塔直下の計測ボックス内に設置された気圧計(PTB210: ヴァイサラ株式会社)によって測定された。単位はhPaである。

## III おわりに

本資料は1980年に出版した「熱収支・水収支観測資料(1)」(1977年8月-1979年3月), 1988年に出版した「熱収支・水収支観測資料(2)-熱収支編-」(1981年7月-1987年12月), 1989年に出版した「熱収支・水収支観測資料(3)-水収支編-」(1981年8月-1987年12月), に続いて1年ごとにまとめられ(渡来・山中, 2007など), 水理実験センター報告及び陸域環境研究センター報告に掲載されている「熱収支・水収支観測資料」の2007年分のものである。

これらの観測値のさらに高度な利用を望まれる研究者に対しては、1時間平均値あるいは積算値が、陸域環境研究センターのホームページ(<http://www.suiri.tsukuba.ac.jp/>)の熱収支・水収支データベース(<http://www.suiri.tsukuba.ac.jp/TERC/database.html>)に保管されている。また2003年5月1日以降は、10秒平均値及び30分平均値データも保管してある。データの集録・処理方法については浅沼ほか(2004)を参照されたい。

さらに、2003年4月以前の気象日報(原簿)および自記打点記録紙などの保管されている原資料の利用も可能である。2003年以前のデータの収録・処理方法については鳥谷ほか(1989)を、1987年以前のデータの集録・処理方法については古藤田ほか(1983)を参照されたい。

なお、2005年までの24年余にわたるルーチン観測データは、Ver. 2.0データという形でクオリティコントロールがなされ、各観測要素の気候値が算出されている。その結果は、「TERC 熱収支・水収支観測データベース図表集」(渡来ほか, 2006)としてまとめられており、2007年以降ホームページで公開している。

## 文献

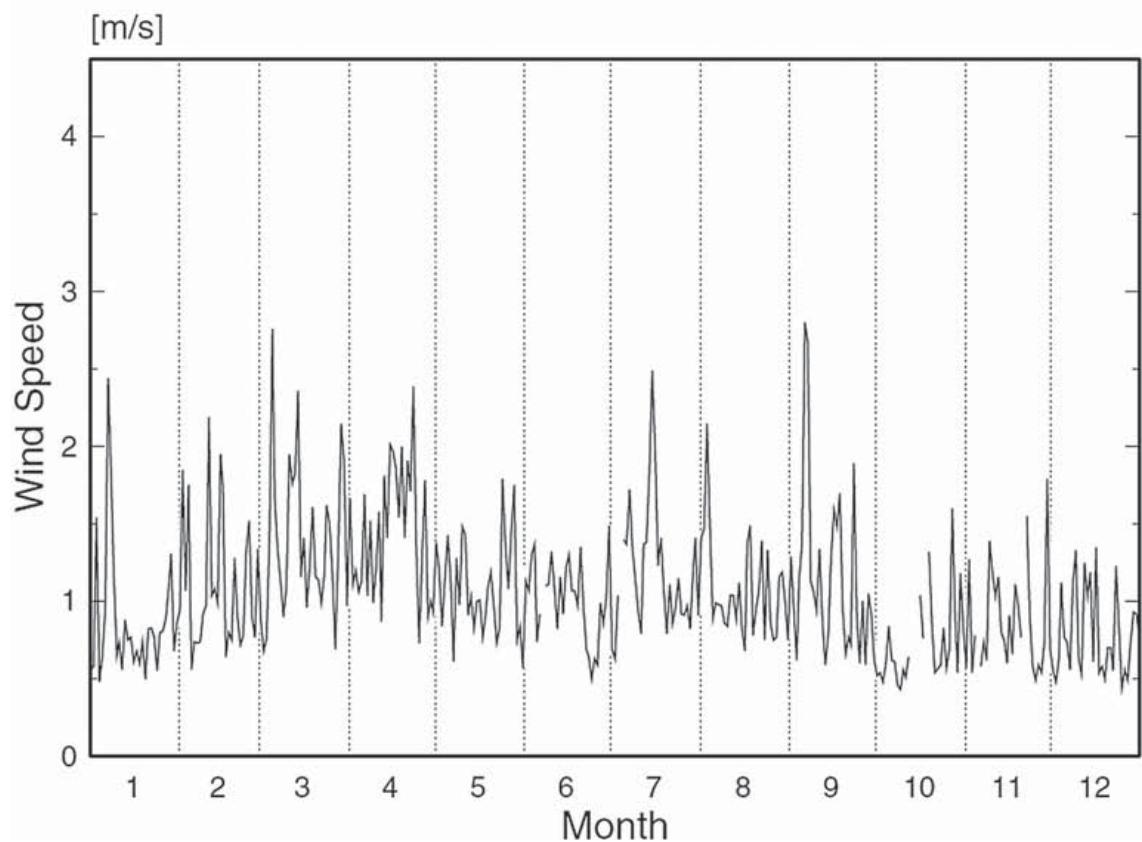
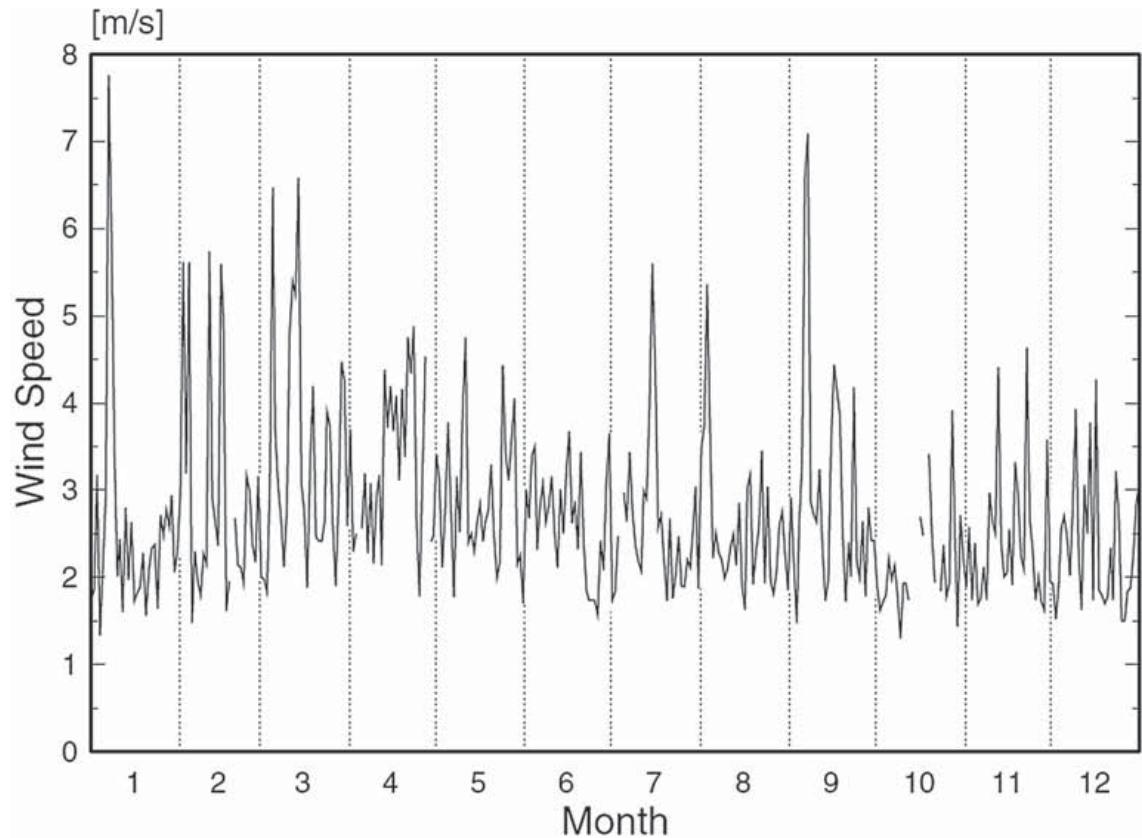
- 浅沼 順・野原大輔・原 政之・寄崎哲弘  
(2004)：第3世代気象・水文観測データ収集・公開システムについて. 筑波大学陸域環境研究センター報告, **5**, 157-174.
- 古藤田一雄・甲斐憲次・中川慎治 (1983)：気象日報作成装置について. 筑波大学水理実験センター報告, **7**, 75-85.
- 齊藤 誠・浅沼 順 (2004)：陸域環境研究センター熱収支・水収支観測圃場におけるフルックスデータのシステム間比較と信頼性.

- 筑波大学陸域環境研究センター報告, **5**, 87-97.
- 鳥谷 均・川村隆一・嶋田 純・谷口真人・西本貴久 (1989)：気象日報作成装置新システムについて. 筑波大学水理実験センター報告, **13**, 147-158.
- 渡来 靖・藪崎志穂・山中 勤 (2006)：TERC熱収支・水収支データベース図表集. 筑波大学陸域環境研究センター報告, **7** 別冊, 97p.
- 渡来 靖・山中 勤 (2007)：熱収支・水収支観測資料－2006年－. 筑波大学陸域環境研究センター報告, **8**, 55-80.

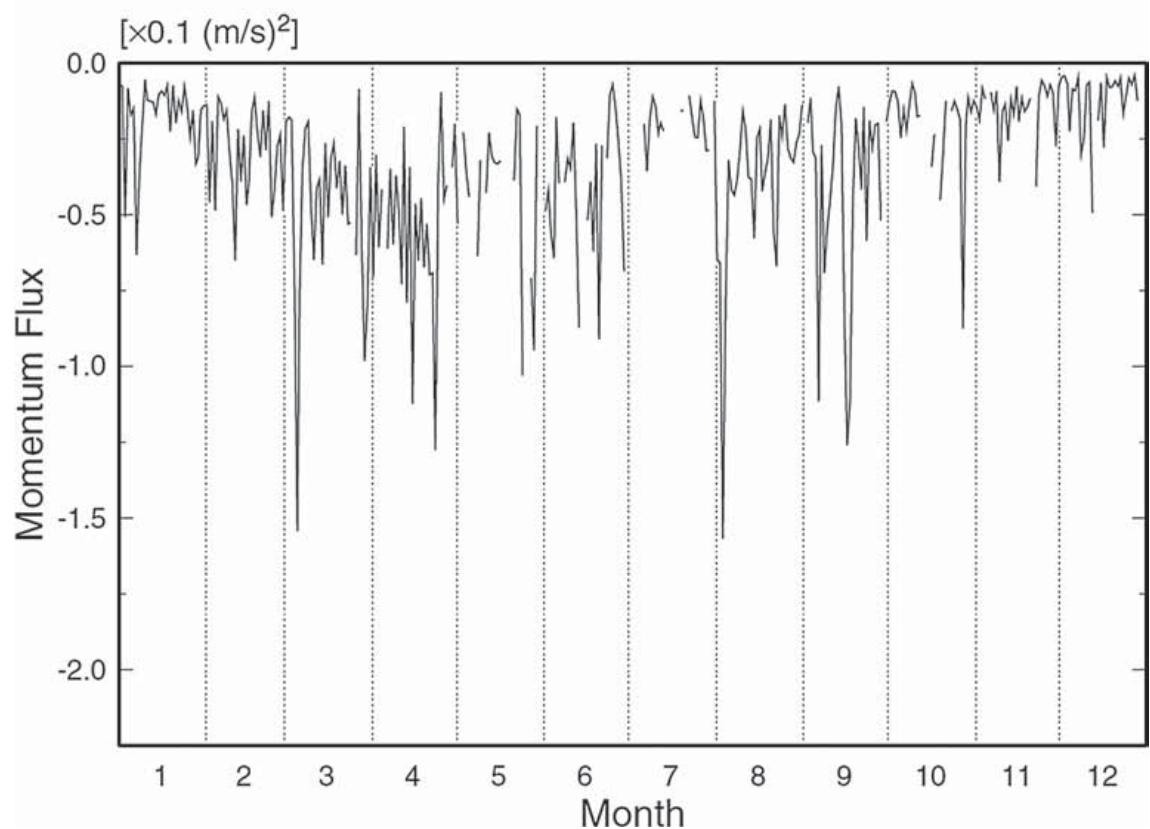
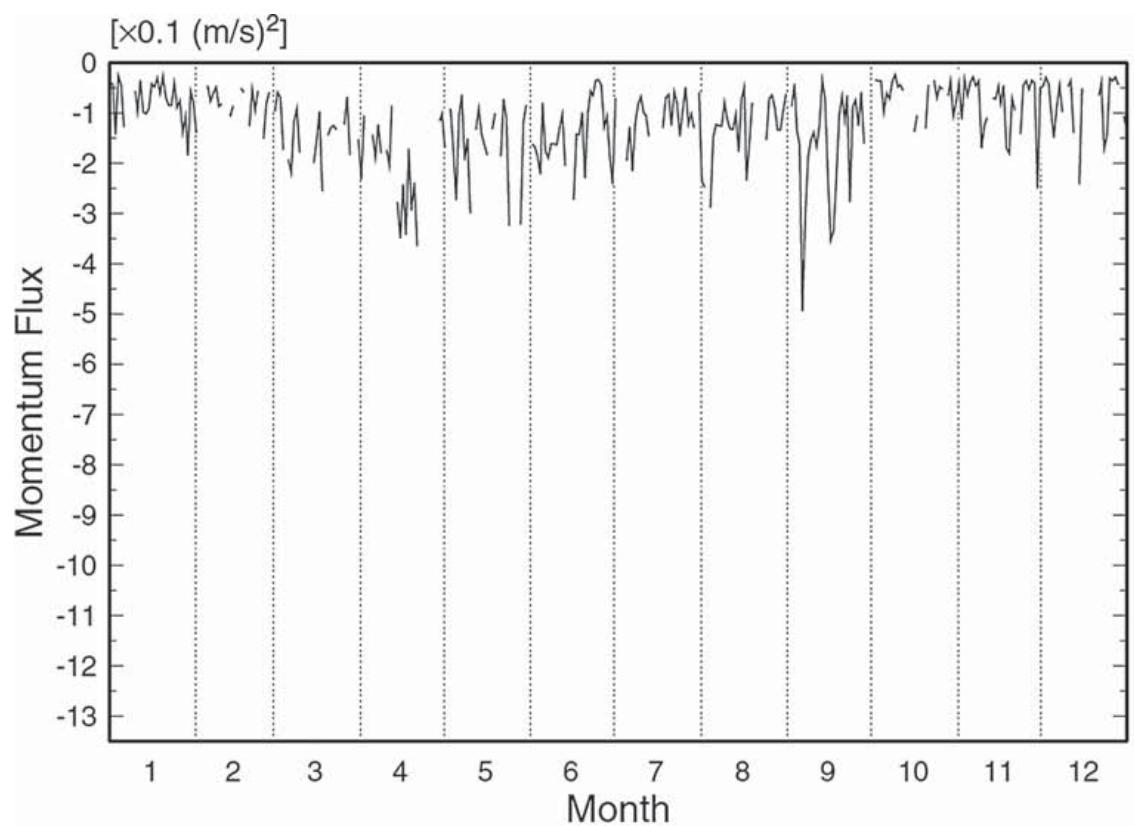
## 気象・水文表

### 表の見方

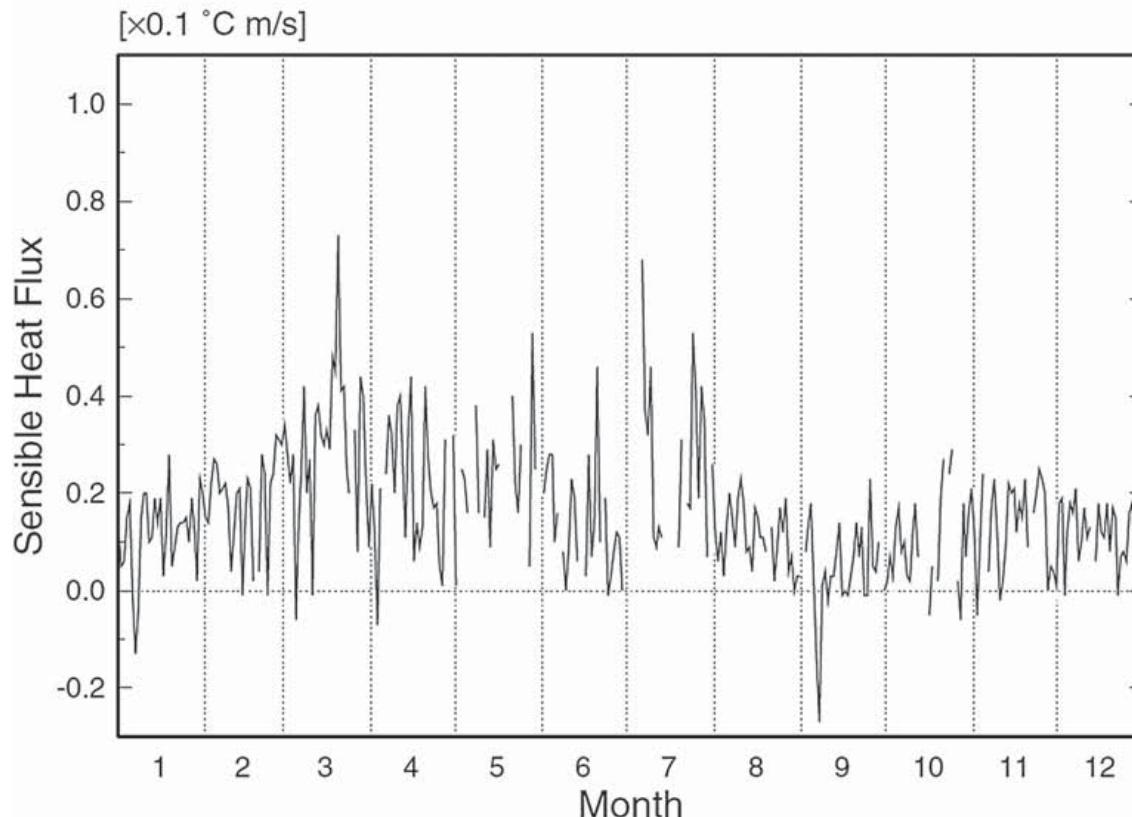
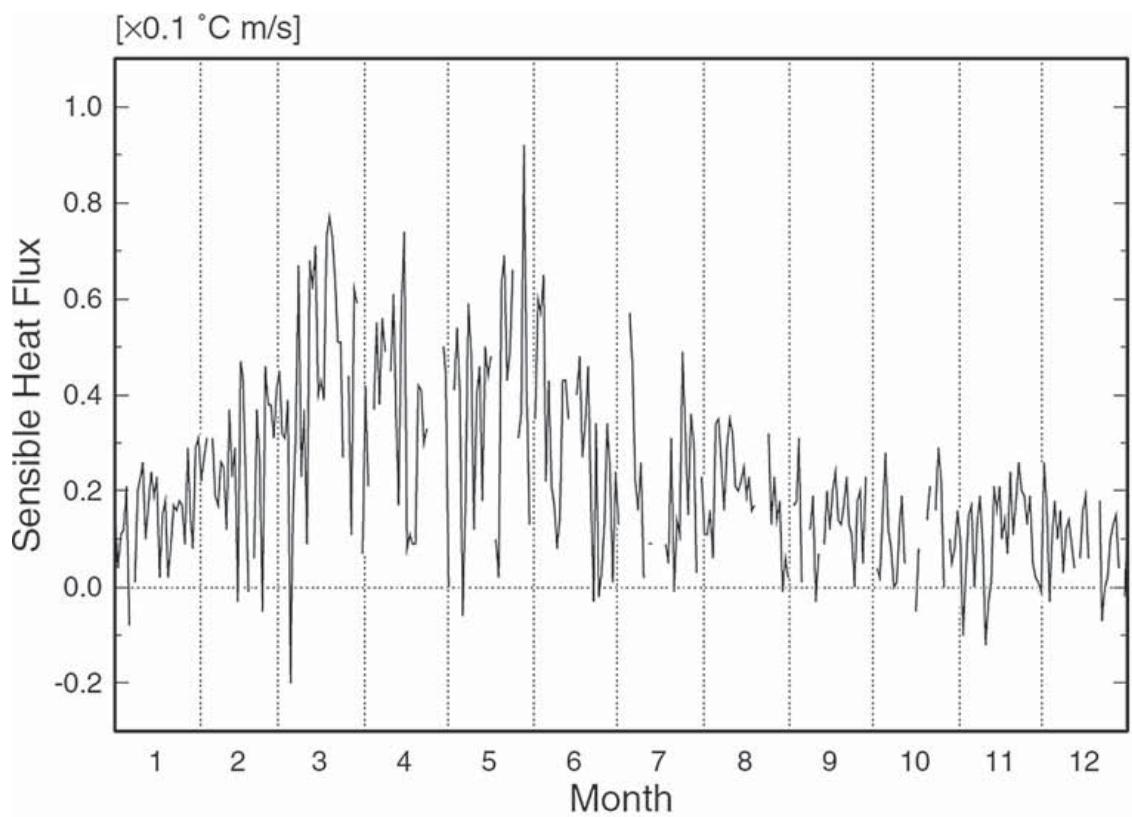
- (1) ITEM は観測要素, INSTRUMENT は観測器を示す.
- (2) UNIT に関して, MONTHLY FREQUENCY は月毎の頻度を示す.
- (3) 表の横軸は月, 縦軸は日である.
- (4) 1 日 24 データ中 (データ識別 160), 20 個未満の日は欠測「\*\*\*」,  
データが 20 個以上 24 個未満は準完全値「・・・」とする.  
「---」は対応する日がないことを示す.
- (5) CALM は静穏, NO DATA は欠測頻度を示す.
- (6) MEAN は月平均値, TOTAL は月積算値を示す.



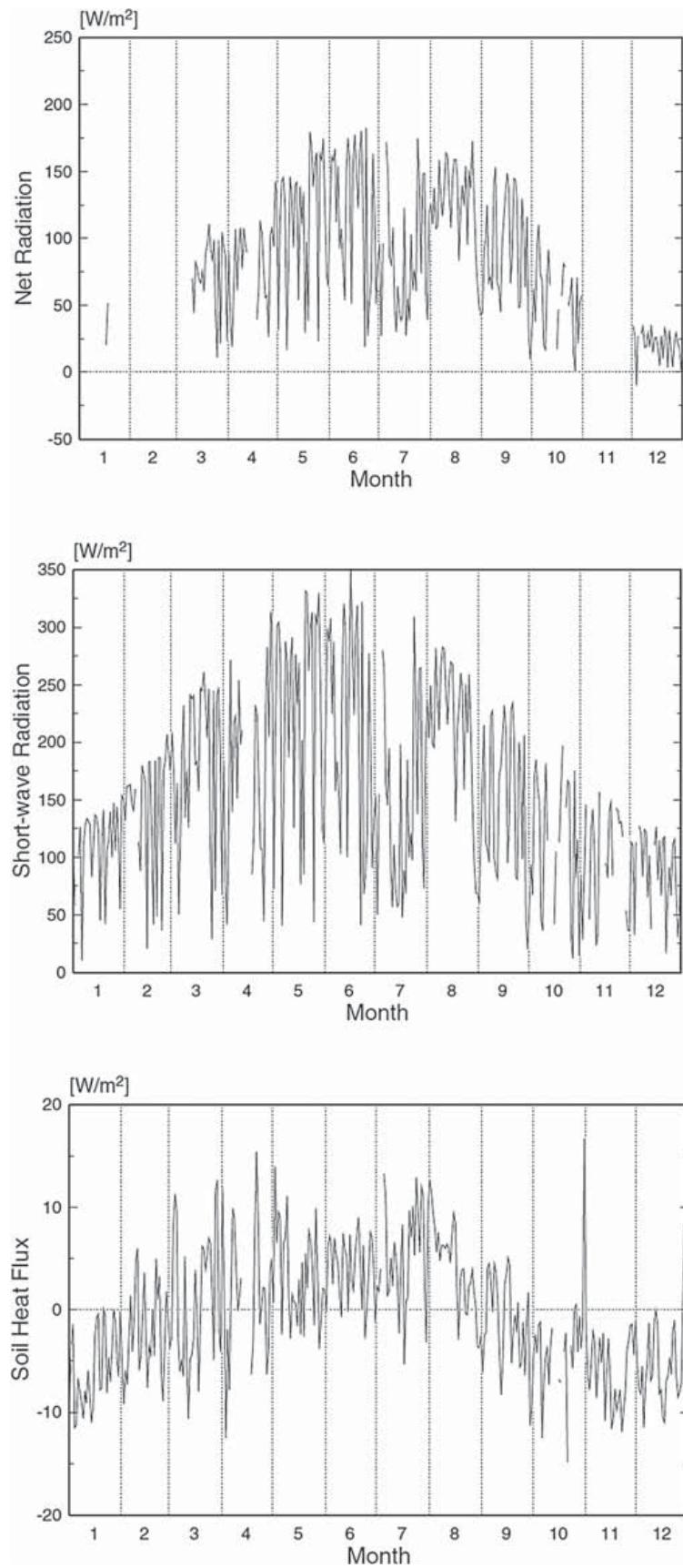
第1図 検定高度 29.5 m (上図), および 1.6 m (下図) における風速の日平均値の季節変化



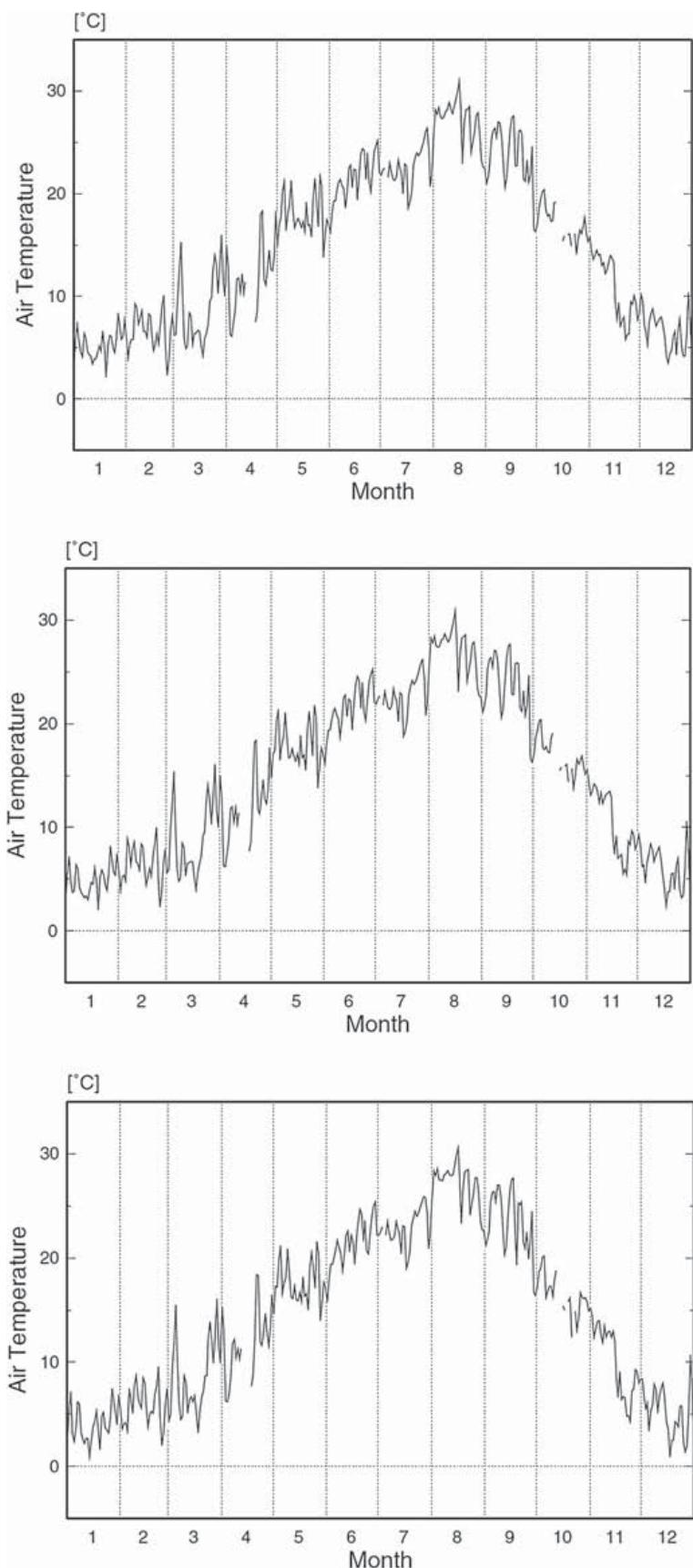
第2図 測定高度 29.5 m (上図), および 1.6 m (下図) における運動量フラックスの日平均値の季節変化



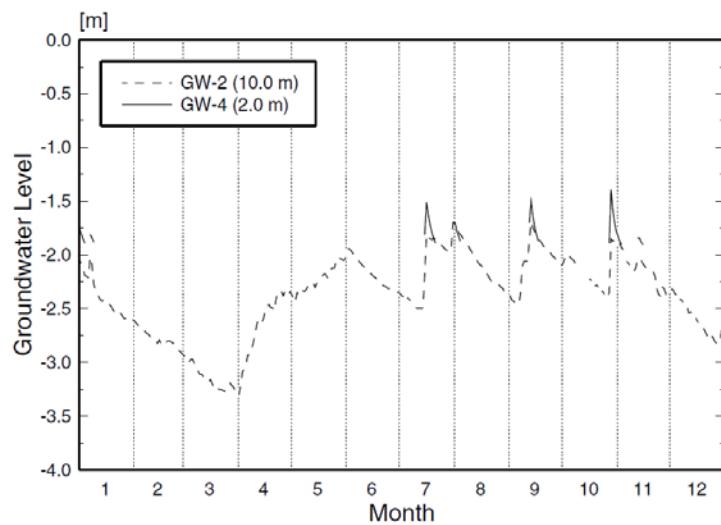
第3図 測定高度 29.5 m (上図), および 1.6 m (下図) における顯熱フラックスの日平均値の季節変化



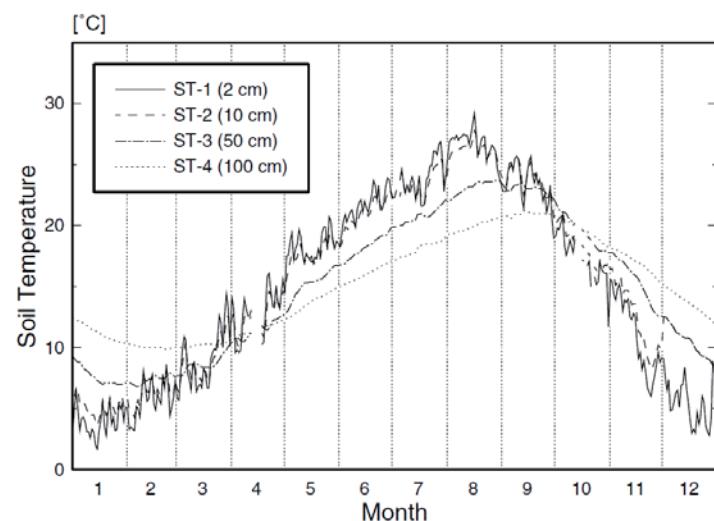
第4図 正味放射量（上図）、全天短波放射量（中図）、および地中熱流量（下図）の日平均値の季節変化



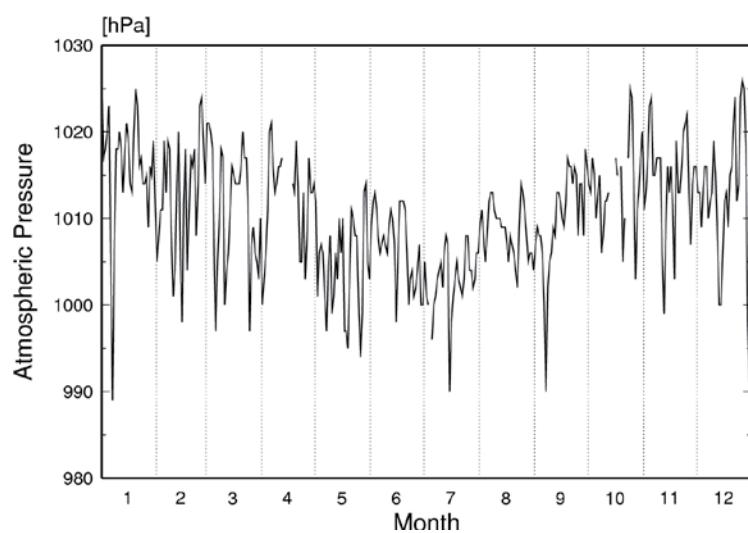
第5図 測定高度 29.5 m (上図), 12.3 m (中図), および 1.6 m (下図) における気温の日平均値の季節変化



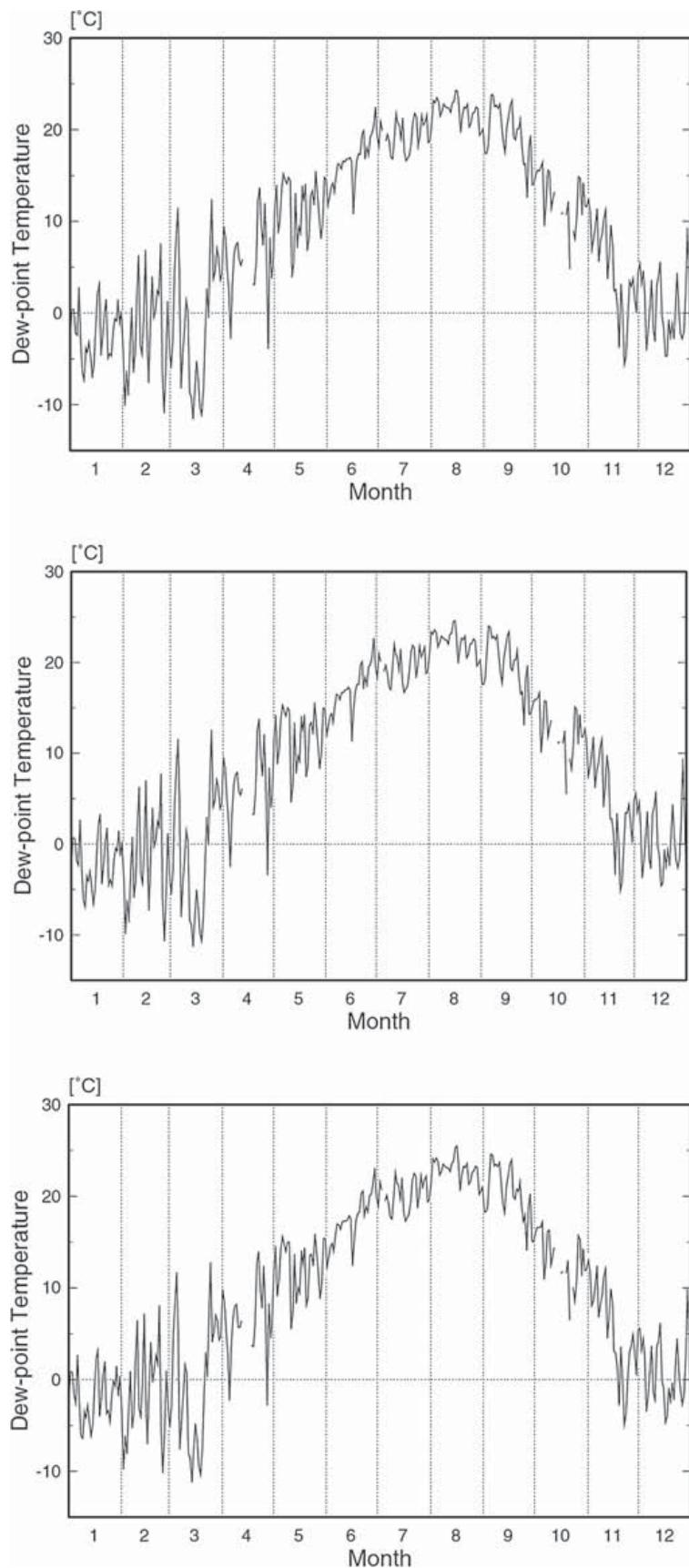
第6図 2深度(10 m, 新2.0 m)の観測井における地下水位の日平均値の季節変化



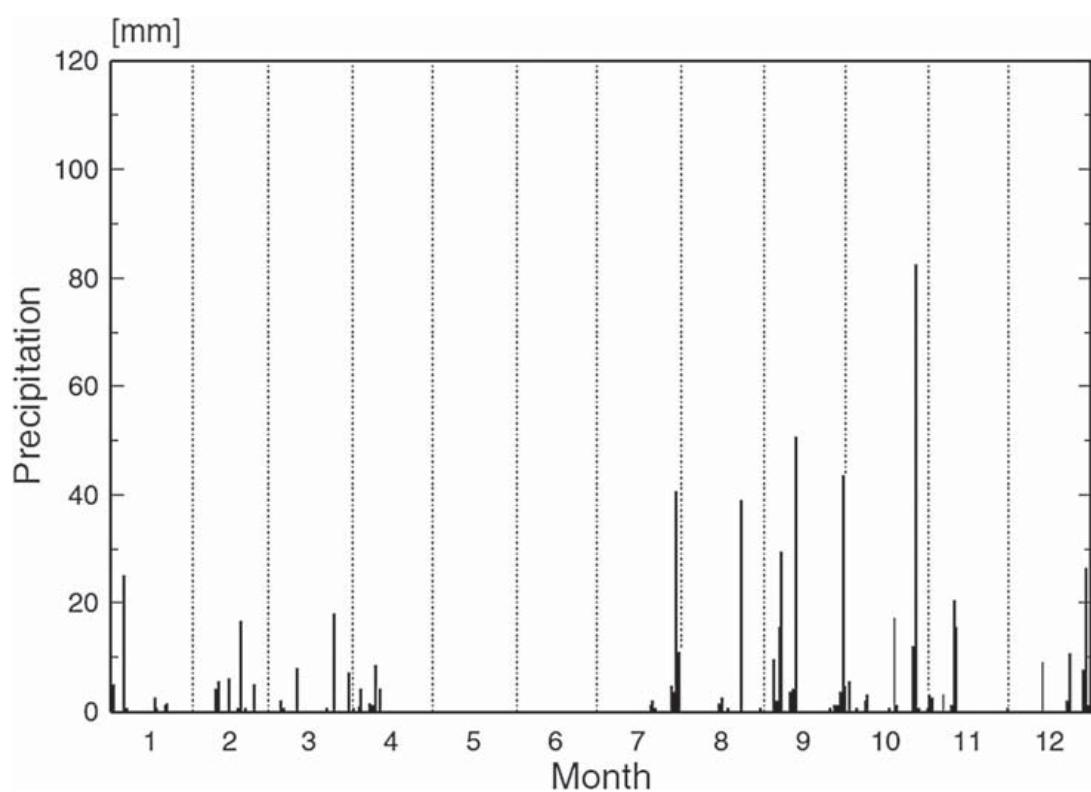
第7図 4深度(2 cm, 10 cm, 50 cm, 100 cm)における地温の日平均値の季節変化



第8図 気圧の日平均値の季節変化



第9図 測定高度 29.5 m (上図), 12.3 m (中図), および 1.6 m (下図) における露点温度の日平均値の季節変化



第 10 図 日降水量の季節変化

























ITEM            ATMOSPHERIC PRESSURE (1.5 m HEIGHT)  
 INSTRUMENT    BAROMETER (PTB210)  
 UNIT            (hPa)  
 YEAR            2007

MONTH	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1	1025	1005	1021	1000	1012	1009	1005	1009	1007	1014	1011	1013
2	1017	1008	1021	1003	1001	1012	1001	1011	1009	1013	1013	1013
3	1018	1011	1020	1006	1006	1013	1000	1008	1008	1017	1017	1009
4	1020	1011	1018	1011	1007	1011	***	1005	1008	1015	1023	1013
5	1023	1019	1005	1020	1006	1008	996	1008	1006	1010	1024	1016
6	1005	1013	997	1021	1001	1006	1000	1012	1000	1013	1015	1016
7	989	1019	1005	1016	997	1007	1001	1013	990	1015	1015	1010
8	1007	1018	1010	1013	1005	1008	1003	1013	1002	1006	1017	1012
9	1018	1008	1018	1014	1008	1007	1004	1011	1005	1008	1017	1013
10	1018	1001	1017	1016	999	1006	1005	1010	1006	1012	1017	1019
11	1020	1004	1000	1016	1001	1009	1002	1010	1009	1012	1006	1015
12	1018	1014	1004	1017	1006	1011	1006	1010	1008	1013	999	1008
13	1013	1020	1006	***	1003	1010	1008	1009	1013	***	1009	1000
14	1018	1005	1011	***	1010	1007	1007	1009	1013	***	1016	1000
15	1021	998	1016	***	1006	998	990	1009	1012	***	1013	1006
16	1019	1012	1015	***	1010	1006	998	1007	1010	1017	1016	1012
17	1014	1018	1014	***	997	1012	1001	1005	1009	1015	1012	1013
18	1013	1004	1014	1014	997	1012	1003	1008	1012	***	1003	1009
19	1020	1010	1014	1013	995	1012	1005	1007	1017	1016	1019	1015
20	1025	1017	1016	1019	1003	1011	1003	1006	1016	1005	1013	1016
21	1023	1016	1020	1014	1011	1006	1002	1004	1016	1010	1013	1021
22	1016	1018	1017	1005	1010	1000	1001	1002	1014	***	1016	1024
23	1017	1008	1017	1005	1008	1003	1003	1009	1016	1017	1020	1012
24	1014	1014	1012	1013	1008	1004	1008	1014	1015	1025	1021	1014
25	1014	1023	997	1003	1000	1001	1008	1013	1008	1024	1022	1024
26	1015	1024	1007	1008	994	1002	1004	1011	1014	1015	1013	1026
27	1009	1019	1009	1017	999	1004	1004	1008	1014	1003	1007	1025
28	1016	1014	1006	1013	1013	1007	1002	1005	1008	1011	1014	1018
29	1015	---	1005	1013	1014	1000	1003	1006	1018	1013	1016	998
30	1019	---	1003	1014	1005	1000	1006	1006	1016	1017	1016	991
31	1012	---	1010	---	1003	---	---	1006	1004	---	1020	---
MEAN	1016	1013	1011	1012	1004	1007	1003	1008	1010	1014	1014	1012